

第62回特別企画展

子規の夏休み



子規と親族 明治24年7月16日撮影

平成28年8月6日(土)～9月5日(月)

休館日：8月9日・23日・30日(いずれも火曜日)

開館時間：午前9時～午後6時(展示室入場は5時30分まで)

会場：松山市立子規記念博物館3階特別展示室

観覧料：個人400円 団体320円 65歳以上200円 小中高校生無料

特典／常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引・

子規博友の会会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引

記念講演 演題：「正岡子規と鉄道の旅」

講師：老川慶喜氏(跡見学園女子大学教授)

8月21日(日) 午前10時30分～正午

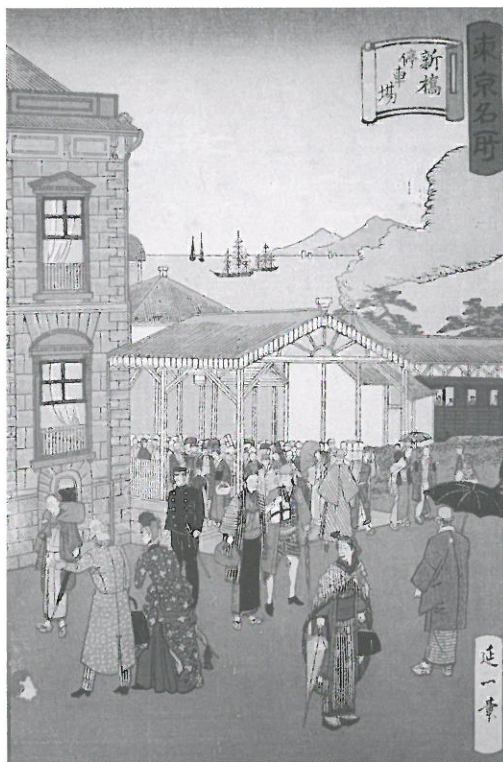
会場：1階視聴覚室 ※入場無料、定員約100名

学芸員によるギャラリートーク

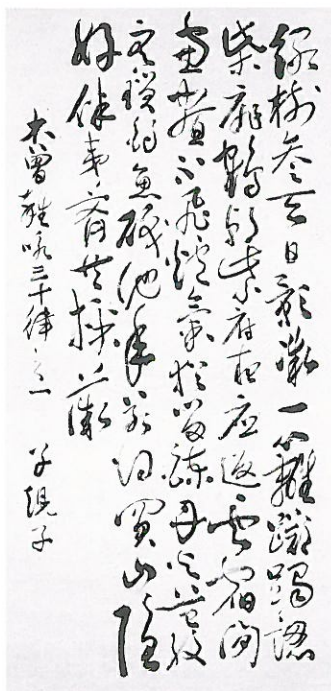
8月13日(土)・9月3日(土)ともに午後2時から50分程度

会場：3階特別展示室

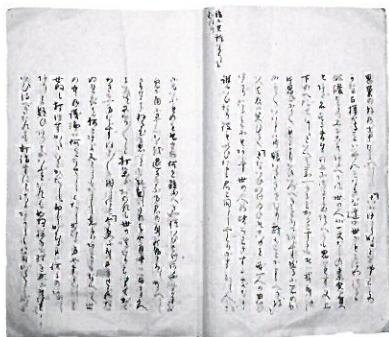
※聴講には特別企画展の観覧券が必要



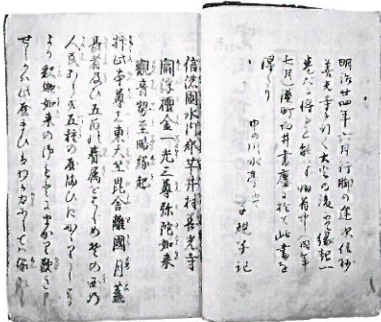
子規漢詩「木曾雜詠」



子規筆「かる巻の巻」



子規旧蔵書『信濃国善光寺如来略縁起』
(法政大学図書館所蔵)



子規の夏休み

第62回特別企画展

子規は15歳で上京して以後、東京で勉学や文学活動に励みました。しかし学校の夏季休暇などには、汽船や汽車を利用してふるさと松山へしばしば帰省しています。学生時代の帰省は、年末年始もあわせると実に7回を数えます。

帰郷中、子規は友人や親族、恩師らと交流を深め、俳句を学び、近隣の名所や景勝地を訪れるなど、充実した休暇を楽しみました。また子規は帰省の行き帰りに利用して、信州・木曾路や琵琶湖畔の天津親友大谷(おほやぶ)空(くう)のいた大阪など、各地を旅行しており、そうした旅の中で数多くの俳句や紀行といった文学作品が生まれました。

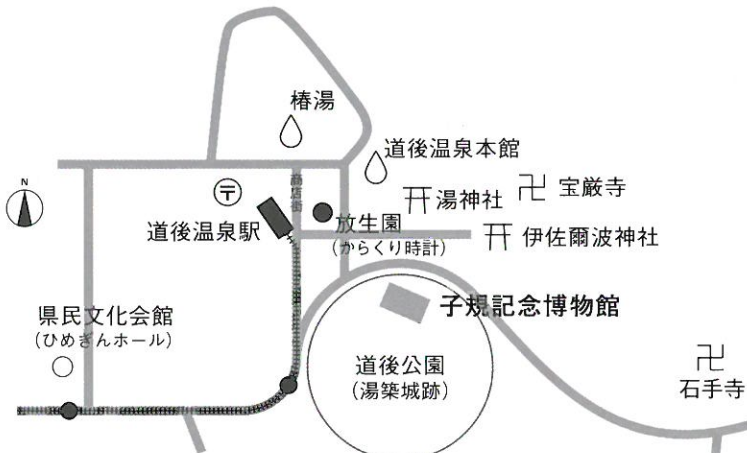
一方で子規は、松山に帰らず東京やその近郊でひと夏を過ごすこともありました。特に明治21年の夏は隅田河畔の向島の下宿に滞在し、ここで自らの才能を伸ばすべく勉強や創作に没頭しています。

このように、子規の夏休みの日々は、彼と郷里の人びとや友人たちとの絆を強め、またその後の子規の生き方や文学活動にも少なからぬ影響を与えました。

この特別企画展では、夏休みの開催時期にあわせ、学生子規の夏休みの活動にスポットを当て、松山での親族・友人との交流や、東京およびその近郊で過ごした日々、また当時の交通機関や旅の様子などについて、関連資料とともに紹介します。

展示アンケート・景品の進呈

展示期間中、展示アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で、当館オリジナルグッズ、もしくは「夏」にちなんだ景品を進呈します。



道後温泉駅より徒歩約5分/道後公園駅より徒歩約5分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください



河東静溪私塾の同窓会明治24年8月23日撮影